

図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

M6.0以上の地震と各領域で最大規模の地震、4月以降に震度4を観測した地震に吹き出しをつけている。

※1 M7.3の地震の発生直後に発生したものであり、Mの値は参考値。

気象庁による

地震の発生が周辺域に与える直接的な影響には「静的ひずみ変化(永久変位)」と「動的ひずみ変化(地震のゆれ)」がある。

平成28年(2016年)熊本地震(4月16日 M7.3)前後の観測データ

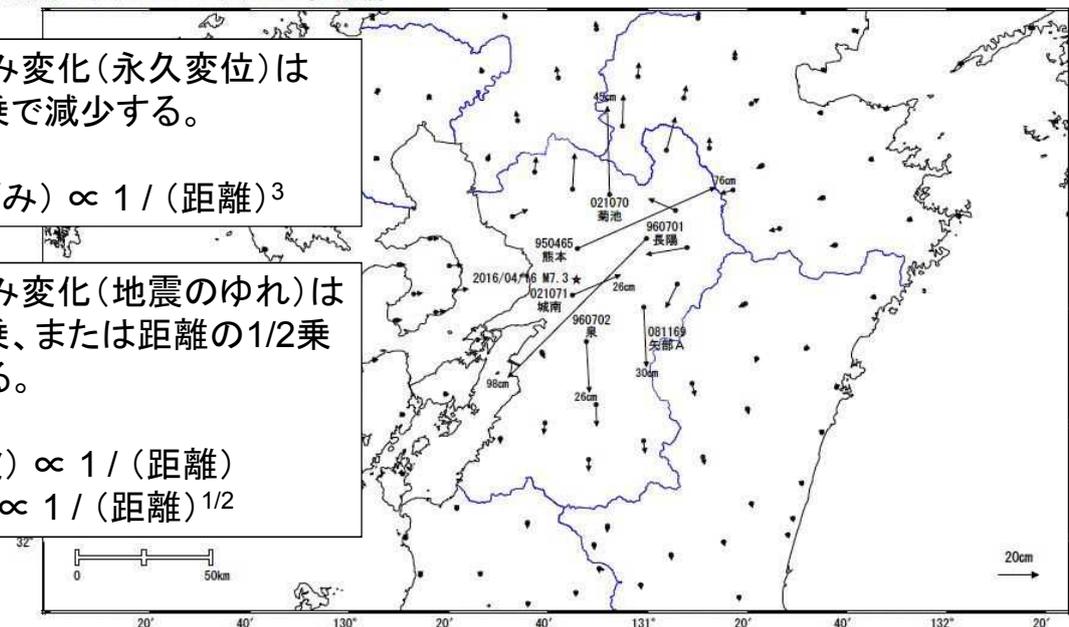
この地震に伴い大きな地殻変動が観測された。

基準期間: 2016/04/15 03:00~2016/04/15 23:59[03:迅速解]
比較期間: 2016/04/16 06:00~2016/04/17 06:59[03:迅速解]

地殻変動(水平)

静的ひずみ変化(永久変位)は距離の3乗で減少する。
(静的ひずみ) $\propto 1 / (\text{距離})^3$

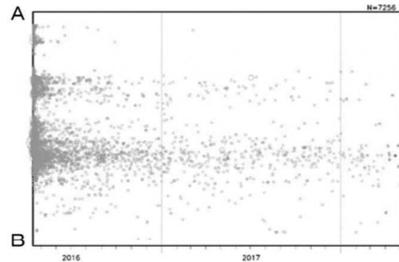
動的ひずみ変化(地震のゆれ)は距離の1乗、または距離の1/2乗で減少する。
(P波、S波) $\propto 1 / (\text{距離})$
(表面波) $\propto 1 / (\text{距離})^{1/2}$



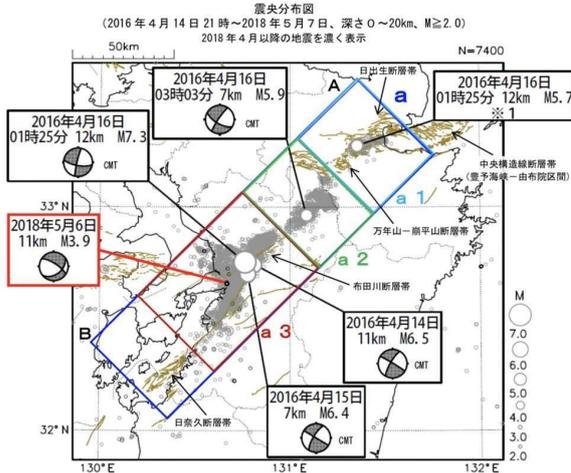
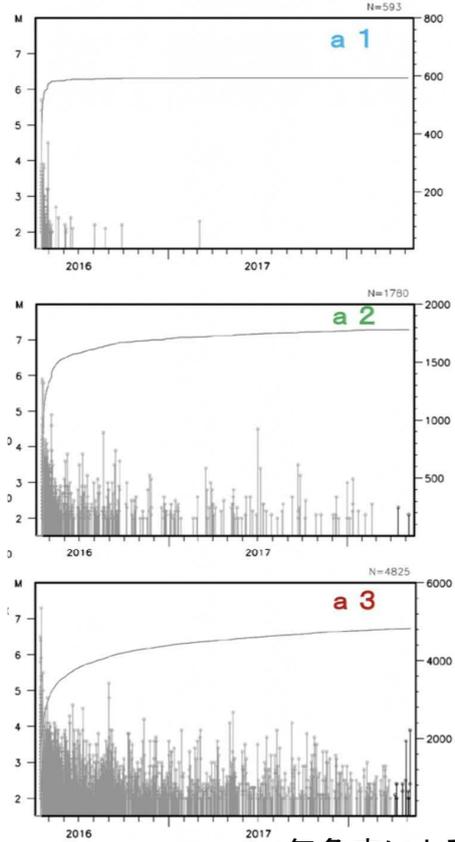
☆ 固定局: 三隅(950388)

地震発生の推移

領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)
(2016年4月14日21時~2018年5月7日)



領域 a 1、a 2、a 3 内のM-T図及び回数積算図
(2016年4月14日21時~2018年5月7日)



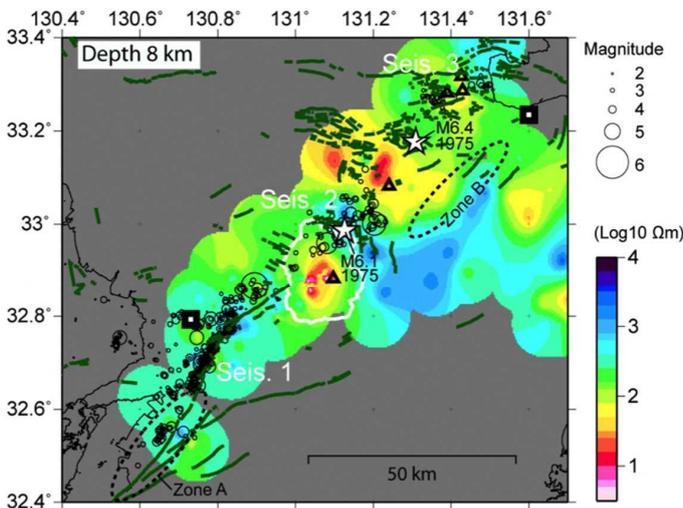
図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
M6.0以上の地震と各領域で最大規模の地震、4月以降に震度4を観測した地震に吹き出しをつけている。
※1 M7.3の地震の発生直後に発生したものであり、Mの値は参考値。

気象庁による

地震はどこでも起こる？

震源分布と比抵抗構造の比較

地震活動は、阿蘇、九重、鶴見岳周辺の低比抵抗領域を避けて、その周辺の高比抵抗領域で発生している。
これは、火山地下が高温となり、地震を起こし難いことを反映していると考えられる。



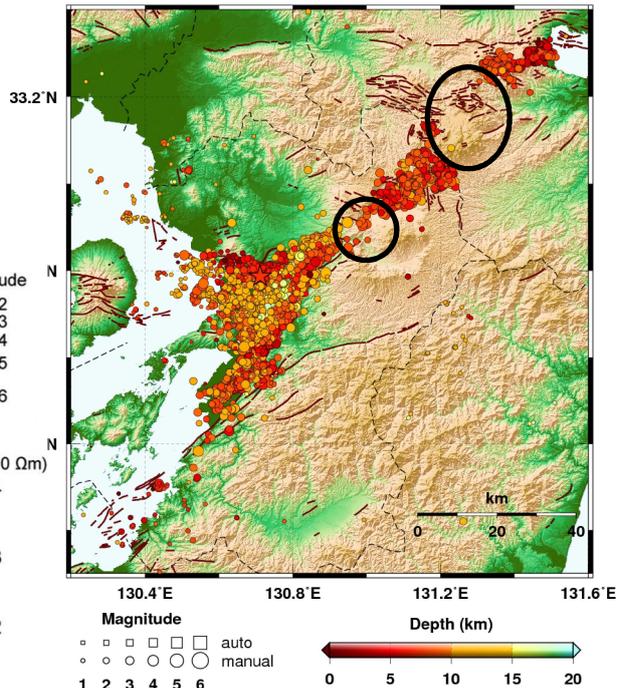
Aizawa et al. (2016)

平成28年(2016年)熊本地震 (発生以降手動のみ)

最新★2016/05/27 00:08:29 32.7868N 130.7120E 7km M0.5 (自動)



Seismicity map of the 2016 Kumamoto earthquake
2016/04/14 21:26 - 2016/05/27 00:15
Last Update (JST): 2016/05/27 00:21 N=4204



© 2016 Institute of Seismology and Volcanology, Kyushu University. All rights reserved.

[\[最新1日間\]](#) [\[最新1週間\]](#) [\[最新30日間\]](#)